

## 第3次牧之原市総合計画に関する特別委員会

日 時	令和4年10月17日（月） 閉会中	11時03分 開会 12時00分 閉会
場 所	相良庁舎4階 大会議室	
出席議員	委員長 12番 太田佳晴 副委員長 13番 中野康子	
	1番 石山和生      2番 谷口恵世      3番 絹村智昭	
	4番 名波和昌      5番 加藤 彰      6番 木村正利	
	7番 松下定弘      8番 種茂和男      9番 濱崎一輝	
	10番 原口康之      11番 大井俊彦      14番 大石和央	
	15番 村田博英      16番 植田博巳	
欠席議員		
傍 聴		
事務局	局長 原口 亨      次長 本杉裕之 書記 大塚康裕      書記 本杉周平	
説明員		

署名 \_\_\_\_\_ 委員長

[午前 11時03分 開会]

---

## 開会の宣告

### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

それではただいまより、第10回の第3次牧之原市総合計画に関する特別委員会を始めたいと思います。

---

## 2 協議事項 (1) 「第3次牧之原市総合計画について」の提言書（案）について

### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

本日は、先ほど全員協議会の報告でもご報告させていただきましたけれども、皆様から出された提言書の作成に向けた意見を基に、提言書（案）を作成いたしました。それについては、先週の金曜日に皆様のところにお送りさせていただきまして、確認をしてきてもらっていると思うんですけれども、それについて、最終案の確認をしたいと思いますので、ご意見をお願いしたいと思います。

今回、皆さんに提言書提出に向けて意見をいただいたんですけれども、あくまでも、出された皆さんの意見を基に作成をいたしました。それで、提出のなかった、また意見が書かれていない部分については、基本的には意見がなかったということで判断をさせていただいておりますので、その辺を踏まえてご意見をお願いしたいと思います。

それと、作成に当たっては、なるべく皆さんの思いを盛り込みたいと思いましたので、皆様から書かれた文章も、なるべく基本的にはそのまま使えるものは使わせてもらって、それぞれの委員の皆さんの思いが、なるべく入るような形でつくったつもりです。

そういったことで確認のほうをお願いしたいと思います。

それでは、提言の背景のほうから、順次、ご意見があれば言ってもらって、訂正箇所が、もしあれば訂正を加えて、市長に提出のほうをしていきたいと、そんなふうに考えておりますので、お願いいたします。

それでは最初に、提言の背景について、どうでしょうか。ご意見は。これは、6月議会で特別委員会が設置されましたけれども、それから、この提言書提出までの経緯、簡単な目的を書いていますので、これはある意味、形どおりの、ある意味、前書きのような感じになります。

よろしいですか。

[「異議なし」と言う者あり]

次に、提言の内容に入りますけれども、まず、総合的な意見として議決されました基本構想、また前期の基本計画等について、皆さんから考え方を上げていただきましたけれども、それを基に、こんな感じで案文をまとめ上げました。ご意見があったらお願いします。

植田委員。

○（植田博巳君）

その中の、上から6行目に「覚悟」って書いてあるじゃないですか。こういう提言の中で、相手方に覚悟をもってやれという表現は、いかがかかなと思ったんですけど。だから「確実に実行していくことが大切である」ぐらいにしておいたほうが。

「覚悟」というと、自分の覚悟とか、ちょっとこういうところに「覚悟」って使うのかなと。ちょっと違和感があったので。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

分かりました。

私のほうとすると、先ほど言ったように、今回、この案文をつくるに当たっては、なるべく委員の皆さんから出た、その言葉を使うということを基本に考えてみました。

そういったことで、今、植田委員の言われるように、行政的な考え方、感じ方から言うと、少し、やはり違和感を感じる部分はあるかとは思いますが。

ただ、我々議会もそうだし、当局側にも多分、そのくらいの強い思いでということを出していただいたと思いましたので、こういった形で入れさせてもらいました。

これ、名波委員が提案していただいた文なんですけれども、そんな感じですけども、ほかの委員の皆さんのご意見をいただきたいと思えます。

どうでしょうか。どうですか。

今、植田委員からは「覚悟」という言葉が少し違和感があるということなんですけれども。

案文をつくるに当たっては、ある程度、そういったことも、強い思いという部分でね。議会の思いと、また、そのくらい強い思いでやってもらいたいというものを伝える意味からも、私は、いいじゃないかなと思って、これを書きました。

植田委員。

○（植田博巳君）

提言書自体が強い思いで提言しているものですから、わざわざ、あえてここに「覚悟」という言葉を入れる必要はあるのかなと思って。全て、そういう覚悟をもってやってくださいということだと思うので。

別に、皆さんがよければいいですけど、個人的には、ちょっと違和感があったなと思って発言させてもらいました。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

どうでしょうか。恐らく、ここだけじゃなくて、全文にわたって、それぞれ議員の皆さん、言い回しとか文章の組み立てって違うと思うんです。それを、なるべく入れ込んだものですから、読んでいる中で、ここは自分の言い回しと違うなというのは出てくると思うんです。

その辺を踏まえて、みんなの思いを伝えたいというところもあるものですから、こんな感じにしたんですけど、それも踏まえて。

中野委員。

○（中野康子君）

鍵括弧を取れば、文章としてはそんなに強くないけれども、鍵括弧をちょっとつけると、ここだけがちょっと強く感じるの、鍵括弧をなくせば「覚悟」という言葉があっても、私は、いいのではないかなというふうに思います。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

ほかの委員の皆さん、どうでしょうか。ご意見をお願いします。

原口委員。

○（原口康之君）

私は、覚悟というと、少し個人的な責任というか、そこら辺のことまで、ちょっと入ってくるのかなという意味で、提言書というと、もうちょっと広い意味ということを私自身は感じるの、ちょっと「覚悟」というのは、この提言書にあまりふさわしくないのかなと考えます。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

どうですか。ご意見。

あくまでも、総合計画を確実に実行していく覚悟ということで、ちゃんと説明は書いているものですから、全体を覚悟しろという、そういうことではないと思うんです。思いはね。

どうでしょうか。忌憚のないところで、皆さん、ご意見を言ってもらって。

植田委員。

○（植田博巳君）

ちなみに、今、調べると、覚悟とは、悪い事態を予測して心の準備をすることという形になっているんですけど、そこら辺が、こういう中でどうかなという。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

それでは、名波委員、どうでしょうか。

○（名波和昌君）

違和感があるということであれば、別にここにこだわっていることではなくて、特に、しっかり意識を持ってほしいということと言いたかったものですから、例えば、「計画を確実に実行していく強い意識を持つことが大切」だとか、そういう言葉に変更していただいても、自分としては別に何ら問題ございません。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

名波委員のほうから、多分、ここを強調というのは「覚悟」という言葉を、たまたま使ったんですけれども、強い思いを持ってということを入れてもらいたい、そのようなご意見ですけれども、どうでしょうか。

では、「計画を確実に実行していく強い意思」、「意識」ね。「強い意識」という言葉でどうでしょうか。よろしいですか。

植田委員、どうですか。首をかしげましたね。

○（植田博巳君）

意識はあるんだけど、覚悟はないとかさ。そういうのもあるもんだから。これ市の方に出すんですよね。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

もちろん、そうです。

どうでしょうか。

名波委員。

○（名波和昌君）

なかなか、あるということであれば、なくして「実行していくことが大切である」というふう  
に、全く外しても別に構わないと思いますけどね。

それが、意識が伝わるかどうかということもありますので。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

私は、これをつくるに当たって、あまり、しゃくし定規に考えずに、みんなのストレートな思  
いを盛り込んだ提言にしたらどうかなということ、この案を組み立ててきたんですけど、その  
ときに、やはり、さっき言ったように、それぞれの個々の皆さんの言い回しというのは違うもの  
ですから違和感を感じるころはあるんですけど、間違っていなければね、間違っていなければ、  
私は、いいかなと、そんな感じでは組み立てさせてもらいました。

それでは、ご意見がないと、なかなか、まとめていけないんですけど、なかなか、出した本人  
とするとね。

村田委員。

○（村田博英君）

市に対する提言書ですから、なるべく分かりやすく、それから、初めてのこういう基本構想に  
対しての特別委員会をつくったんですけど、その背景はね、我々も参画したいということだった  
と思いますね。

ほかに「稼ぐ力」とかね、いわゆる抽象的であって、その裏には非常に深い気持ちが入って  
いるという言葉があったんですね。ここだけじゃなくてね。そういう意味で捉えたときに、本当  
にちゃんとやってよということを言いたかったんでしょうね。

したがって、どっちも、あれですが「稼ぐ力」というのもね、これは見えないんですよ。「稼  
ぐ力」とか「覚悟」とかというのは見えない。ただ、その背景を読み取ってほしいという意味だ  
と思いますので、じゃあ、どうするのかということはお任せします。

また、改めて申し上げます。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

村田委員、どうでしょうか。

○（村田博英君）

私はね、入れておいてもいいかなとか思いますけど。

ちゃんとやってくださいという意味でね。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

なかなか、個々でご意見があるものですから、多数決というのもそぐわないんですけども、最終的には多数決でとっていくしかないんですけど、どうですか。

石山委員、何か言いたそうな感じですけど。ご意見をお願いします。

**○（石山和生君）**

もし、多数決をやるんだったら、どちらでもいいというのを用意してほしいかなと。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

それはないですね。

**○（石山和生君）**

本質的に、ちゃんと市に対して言っていくというのは、僕は大事だと思っていますけど、ただ、「覚悟」という言葉が、さっき辞書であったとかというのもあるので、思いが伝わればどちらでもいいかなというふうには思っています。

どちらかといえば、どっちにと言われたら、一番重要な総合計画ということを考えると、いい言葉で、そういった思いを伝えられる言葉があるといいのかなというふうには思いました。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

その言葉は、どうですか。

**○（石山和生君）**

その言葉。僕だったら「覚悟」は使わずに、「確実に実行していく」に括弧をつければいいのかなと思いました。

これを、さっき名波委員がおっしゃったとおりにして、ただ強調したいよということで、「確実に実行していく」とかのところを、今の「覚悟」と同じような感じで括弧しちゃうとかというのもいいかなと。

ただ、案が出し過ぎてもちょっとあれだと思うので、そんなに僕は重要視はしていない。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

ちょっと困りましたけど、どうしますか。

大井委員。

**○（大井俊彦君）**

ここね、さっき、中野委員の意見に賛成なんですけれども、「覚悟」のところには鍵括弧がついているので、強過ぎるようなイメージになっちゃうものだから、別に私も、石山委員みたいに、別にほかの表現でもどちらでもいいんですよ。いいけれども、もし、これをもうちょっと弱くとかいうか、目立たなくとかいうか弱くするような意味でいけば、鍵括弧を取ったぐらいでもいいかなというふうに、私は思います。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

植田委員。

○（植田博巳君）

表現を弱くするとか、そういう意味じゃなくて、私が言っているのは。提言書そのものが、すごい重みがあるものだということの中で、あえてここで「覚悟」という言葉まで使わなくても、提言書そのものが、そういう覚悟をもって提言するのだというような感じで、なくてもいいのかなということです。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

濱崎委員。

○（濱崎一輝君）

私はスマートに、「牧之原市総合計画を確実に実行していくことが大切である」という形でいいのかなと思います。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

名波委員、どうでしょうか。いろんな意見が出て、委員長が意見を言っはまらずいんですけど、私は、さっきから言うように、思いというのを入れ込みたいなと思ったものですから、そういうことで、できたら入れたいと思ったんですけど、皆さんからは、そういう意見です。

○（名波和昌君）

お任せします。委員長に一任します。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

出してもらった名波委員のほうから、そういった意見ですので、ここは取っていくように、「実行していくことが大切である」ということで行きたいと思います。  
よろしいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

大井委員。

○（大井俊彦君）

この1行目なんですけれども、「限られた経営資源を優先度の高い施策に重点的に配分し」というふうに、一般的には「限られた財源を優先度の高い施設に重点的に配分し」という表現になるのかなというふうに思うんですけれども、あえてここで「経営資源を」という表現にしたということは、お金だけじゃなくして、例えばの話、人材とか、そうしたものも含めた中での表現として「経営資源」という表現にしたのかなというふうに思ったんですけど、その辺をちょっと確認させてください。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

もう一回、言って。

○（大井俊彦君）

「限られた経営資源を優先度の高い施策に重点的に配分し」ということで、「限られた経営資源」というふうな表現なんですけれども、一般的にいけば「限られた財源を優先度の高い施策に重点的に配分し」という表現になるのかなと思うんですけれども、あえて「経営資源」という表

現にしたということは、お金だけじゃなくて、例えば人材とか、そういうものも含んだ中での表現のかなというふうに思ったものですから、その辺を確認させてくださいという意見です。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

分かりました。「経営資源」ということですね。ここが問題だということですね。何を含んでいるかということだね。分かりました。

**○（大井俊彦君）**

問題というか、普通は、お金だけという意味じゃなくて、そういう意味では人材的なものも含んだ経営資源という表現かなと、そこをちょっと確認したかった。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

これは、加藤委員のほうから出してもらったんですけど、加藤委員の、この辺の思いを、少し説明をお願いします。

**○（加藤 彰君）**

今、大井委員の言われるとおり、財源だけではないと思います。ですので、もう少し、例えば観光資源も含め、いろんなものの資源ですね。そういったものを大事にしていくことが大事でしょうという、そういう意味でございます。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

それでは、これはそのまま「経営資源」ということで。

ほか、どうでしょうか。

〔「なし」と言う者あり〕

それでは、これでよろしいですか。お願いします。

それでは次に、2の重点戦略・プロジェクト（1）戦略1の富士山型ネットワークの充実について、これについて、ご意見をお願いいたします。

よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

それでは、（1）はこれでいきたいと思います。

次に（2）戦略2、ゼロカーボンと経済成長の好循環の実現について、ご意見をお願いします。

よろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

それでは、戦略2は、このままいきたいと思います。

次に（3）戦略3、日本一女性にやさしいまちの推進について、ご意見をお願いします。

よろしいですか。

石山委員。

**○（石山和生君）**

確認なんですけれども。1点だけ。

これは議会として正式に、女性にやさしいまちを認めるというような方向でいいということで、

認識は合っていますかという、この確認だけです。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

日本一女性にやさしいまちを認めるというか、あくまでも総合計画の中のプロジェクトの戦略3の中で、こういったことなんですけど、それを認めるか認めないかは、これから市が打ち出していく施策について、まさに議会がいろんな意見を、また提案するというのが、これからだと思うんです。

だから、これを認める認めないというのは、どちらかといえば認めたと、方針は認めたんですから、それは認めたと言うべきだと思うんですけれども、そういったことでいいと思います。

石山委員。

**○（石山和生君）**

認めたというのは、どういう意味なのかなというのを思っていて、多分、公に完全に文字として出てくるのは、今回、初なんじゃないかなと思うんですけれども、市長がやりたいよとか、広報誌に載っていたりとか、そういった。基本構想にも「日本一女性にやさしいまち」とは載っていないと思います。載っていないと思いますね、構想のほうには。

なので、僕はいいと思うんですけど、そういった認識で合っていますかという確認です。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

だから、基本計画が、基本構想の今回、議会の資料として入っておりますし、その中で、ちゃんと、この言葉は使っているものですから、間違いなく、それは議会のほうは、議決ということでいけば、まずは認めた。

だから、認めたけれどもね、これからは大事だと思うんです。また、石山委員の思いを、しっかり行政に伝えればいいと思います。

それでは、よろしいですか。

加藤委員。

**○（加藤 彰君）**

障害者の「害」という字は、これは、例えば福祉の計画とかで使っている、その辺、ちょっと確認していただきたいなと思います。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

そうだね。ここは、事務局、「害」も平仮名のほうがいいですかね。

それでは、ここは平仮名の「がい」にさせていただきます。

ほか、ご意見はありますか。

〔「なし」と言う者あり〕

それでは、ないようですので、「障害者」の「害」を平仮名の「がい」にさせてもらって、このとおりとします。

次に、戦略4のDX（デジタルトランスフォーメーション）の推進について、ご意見をお願いします。

それでは、これはよろしいですかね。

〔「なし」と言う者あり〕

最後になりますけど、戦略5の次代を切り拓く力を育む新たな学校づくりについて、ご意見をお願いいたします。

学校再編については、せんだっての文教厚生委員会でも、まちづくりについてということも、ご意見として問題になっておりましたけれども、本当に大事なことは、学校再編というのは、まちづくりも含めた一体化しているものだと思いますし、それについては、議会のほうでもしっかり、これからいろんな指摘をして、正していくべきだと思います。

そういった意味で、最後にまちづくりという言葉も入れさせてもらいましたけれども。

大井委員。

#### ○（大井俊彦君）

言い回しなんですけれども、（5）の下から3行目と下から2行目のところなんですけれども、「地域の意見を十分に聞き」、その後なんですけれども「民間企業との連携や民間企業を積極的に」と、民間企業、民間企業というのが、何かくどのような感じがするんですけれども、その辺の表現の仕方なんかは、どうなんですかね。

二つ、民間企業、民間企業と両方出てくるものですからね、この辺は、もう少しすっきりしたほうがいいかなという。

#### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

「民間企業との連携」を。連携を積極的に誘致ではないもんね。

それでは、これは濱崎委員の文なので、少しご意見を。

#### ○（濱崎一輝君）

これは、民間企業と行政と連携するというパターンと、民間を誘致するという。民間を誘致するというのは、行政側はあまり関わらないというか、関わりがちょっと薄くなっていくので、そういった部分で二つというふうに入れたんだけど、確かに二つあると、くどいなというのはありますけど。

#### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

民間企業と連携。

#### ○（濱崎一輝君）

例えば「民間との連携や、民間企業を積極的に誘致」とかというのと、少しは違うかな。

#### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

二つ入れたいわけだよ。民間企業としっかり連携してもらいたい、誘致する、というね。ある意味、二つのことを同じに言っているの。

名波委員。

#### ○（名波和昌君）

例えば「民間企業との連携や誘致を積極的に行うなど」とかと言えば、うまくつながるかなと

思いましたけど、いかがでしょうか。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

連携と誘致ということだとすれば。

「民間企業との連携や企業誘致を積極的に推進するなど」ということだよ、要は。「推進」だと、また後ろに推進が来るので「進める」か。

それでは、「民間企業との連携や企業誘致を積極的に進めるなど」、どうですか。

それでは、それに直して。

植田委員。

**○（植田博巳君）**

学校跡地を、民間企業を誘致するという、そういうことだよ。意味合い的には。学校跡地を「連携」は分かるんだけど、「誘致する」って、ここで言っちゃっていいのかなと、ちょっとそこから辺が。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

濱崎委員。

**○（濱崎一輝君）**

私のイメージというのは工場とかじゃなくて、例えば、最近、はやっている、あるじゃないですか、名前が出てこない。テント型のあるじゃないですか。グランピングとか、そういうやつを誘致するとかね。イメージ的にですよ。

だから、それは民間企業がやるものなので、行政は関わらないのでという、そういう観光的なものの誘致化というイメージをして。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

ここでは、ここでは別に確定的に言っているわけではないし、最後の結びでは「行政だけでは実現できない利活用は広い視野で」と。最終的には、この広い視野で推進してもらいたいけれども、その前文で、こういったことも考えてということなので、別にそこはいいと思うんですけどね。

特に、チャレンジビジネスコンテストでも、いろんな企業が牧之原市に対して興味を持ってきている中ですから、やっぱり選択肢として。

どうですか。

木村委員。

**○（木村正利君）**

私もですね、そこは民間活用した企業力の、体力のあるところという中で、一つは肝になるところ、これだけ8校の学校再編のところの跡地利用なんかは、民間のところというのは僕も大事だと思っていますので、行政だけでない、実現できない利活用の広い視野での考え方をというのは、マッチしているかなと思いますので、今の「企業誘致などを積極的に」ということ、「民間との連携」というのはポイントかなと感じているので、これで、私はいいなと思います。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

どうですか。

これを、提言を出したから、このとおりになるというのは、全くそういうことではないので。

だから、先ほど来、言うように、皆さんの思いをなるべく詰め込んで、それで出していきたいなと思っていますので。どうですか。

植田委員、どう。

**○（植田博巳君）**

特にね、民間誘致はいいんだけど、何か積極的に跡地を全部企業誘致しようというような、そんなイメージも持ちちゃったものですから、ちょっと、いかがかなと思ったものですから。

私が思うには、下から2行目の「行政だけでは実現できない利活用は、民間企業との連携など広い視野での考え方をもち、まちづくりを推進すること」でまとめてもいいのかなと思ったんです。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

同じことだよね。

**○（植田博巳君）**

同じですけど、特出しは、あまりしていないという、そういう意味で。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

今、植田委員のやつをはめ込むと、どちらかと逆に、そっちが強くなると思うので。

この「行政だけでは実現できない利活用は広い視野で」というと、広く持っているわけだよね。民間企業との連携だけじゃなくて。だから、その言葉をここへ入れ込んでしまうと、今度は逆に、植田委員が言うようなほうへ強くなるような気がしますけど、どうですか。

植田委員。

**○（植田博巳君）**

ちょっと、私は前段にある「積極的に誘致するなど」「広い視野で」ということですから、どっちも強くなる、ならないというのは関係ないのかなと思っていますけど。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

どうですか、皆さん。

石山委員。

**○（石山和生君）**

ちょっと僕も、議長の言うように、「地域の意見を十分に聞き」というのが先に来るので「民間の」って、ここであえて言わないほうがいいかなとも、ちょっと今、議論を聞いていて。

ただ、広い視野を持つという意味では重要だとは思いますが、「積極的に誘致する」まで入れないほうがいいのかと、植田議長の意見に共感ではないですけど、確かにそういうこともあるなというふうに思いました。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

どうですか、皆さん。

谷口委員。

○（谷口恵世君）

私もちょっと同じく、「地域の意見を十分に聞き」、「行政だけでは実現できない利活用は広い視野での考えを持ち」というところに、民間とかそういうことが含まれるので、この「民間企業との連携」とかというのを強く、あまり出し過ぎないほうがいいんじゃないかなと思いますので、そこを全部抜いてしまってもいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

これ、どなたでしたか、ご意見は。

濱崎委員。濱崎委員、少しご意見を。

○（濱崎一輝君）

私、行政任せだと、なかなか進まないのかなというのがあるって、先進的な取組をしているところというのは、民間企業が結構連携してきてやっていて、特に島田なんかは、廃校になった跡地なんかもグランピングを有しているところもあるので、そういったものが先進的なところって注目されるものですから、なかなか、そういうのは行政は難しいのかなという思いがあったので、あえて「民間」というのを入れたというのがあります。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

植田委員。

○（植田博巳君）

要は「広い視野」というところに民間も入るし、いろんな企業も入るよというところで谷口委員はおっしゃったと思うんですけど、広い視野として民間も入っているという位置づけにするのか、逆に、その前に「民間企業との連携や誘致など、広い視野で」って、そういうのを入れるかどうか、かなとは思いますが。

だから「広い視野」というと、全部入るのかなというところもあると思うんですけど。それを具体的にするんだったら、その前段に「民間企業との連携や誘致など、広い視野での考えを持ち」って流れてもいいのかなと。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

それだと一緒だよ。最初から言っているのと。

○（植田博巳君）

一緒だけど、前段が消えちゃうじゃないですか。「民間企業との」「誘致するなど」の3行目のお尻から2行目の真ん中までは消してやればいいのかと。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

最初に言うように、私は、皆さんの意見をなるべく入れたいと思ったんです。

○（植田博巳君）

全部意見は入れてくれていいんだけど、文章的というか、意味合的に、どう整理するかというお話かなと思ったので言っているんです。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

それと、特に先ほど来、言う、チャレンジビジネスコンテスト、これで、これだけの企業が手を挙げてくれたというのは、すごいことだと思うんです。

それと、今後の行政運営って、やはり民間的な考え方で、まちをやっついていかないと、このまちって、本当に閉塞感で、実は何年か、二、三年前に県庁にいたら、ちょうど議長のとときね。ある人が、どこから来たかと言われて、牧之原市だよと言ったら、牧之原市はいずれ消えていくんだと、こう言われたんです。私、頭にきて、何だって言ったんですけどね。

だから、そのぐらい、少し閉塞感があるので、ある意味、行政の今までの基準じゃなくて、その枠を出るような、積極的に打って出ないと、まちってこれから埋もれていくような気がするものですから、その部分が、もし、そういうことで気になっているなら、あまり気にしないように、それは盛り込んだほうが私はいいと思ったものですから、こうしたんですけれども。

**○（植田博巳君）**

それは同感なんですけど、これは前段に、主語は学校跡地の活用についてはこうしましょうよということですので、全体的には、委員長が言ったとおりで構わないと思うんですけど、それで、そういうものを入れると、地域の意見を聞いて、「行政だけでは実現できない利活用は」というくぐりになるので、「民間企業との連携や民間企業を積極的に誘致するなど」は消して、「広い視野」の前に「民間企業との連携や誘致など」と入れればいいのかと、私は思って言っているんですけど。

文面的なことです。意味合的には一緒ですけど。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

それでは、一緒じゃないかなと思ったんですけど。

**○（植田博巳君）**

一緒といたら一緒ですけどね。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

それでは、そういったことでよろしいですか。

あとは、ここでごちゃごちゃやってもしようがないので、考え方さえ、そういったことでいくならば、あとは事務局と、文のほうは修正して出すようにします。

切るということなら、それは皆さんに諮らなければいけないですけども、言い回しだけの違いならば、ここでやってもしようがないので。

それでは、いいですか、そんな感じでまとめさせてもらって。

石山委員。

**○（石山和生君）**

ここにあって書くというと、例えば、宅地とかそういう、結構消極的に見えるけど、まちにと

ってはいいいみたいなこともあると思うんですけど、行政がそっち側に持っていっちゃう。ここに書いてあるし、そっち側に、民間と。

冷静に民間と、宅地や、例えばですけど、こうやって見たときに宅地のほうが実はよかったとしても、こういうのが書いてあったら、積極的に民間とやりたいと思ってしまって逆転現象が起きるみたいなことも、何かあり得る気がするので、わざわざこの提言書に強く書く必要はないんじゃないかという意見には、賛成というか理解できて、切るべきか切らないべきかで言ったら、僕は切るべきのほうでいいんじゃないかと。

なので、切るべきだとしたら、ここで発言しなきゃいけないということだと思ったので、今、発言しています。

#### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

今、最初に言ったものは「地域の意見を十分に聞き」ということが入っているものですから、宅地にするのか、企業誘致にするのかという前段としては、まず、今やっていますが、そういうことじゃないんですかね。

だから、別に企業誘致にこだわるわけじゃなくて、最終的には「誘致するなど」という、一つの選択肢として挙げてあるだけで、それを積極的に何でもかんでもやれよということではないものですから。

石山委員。

#### ○（石山和生君）

そう受け取れるんですけど、行政側がこれを見たときに、すごい強く「民間企業」「民間企業」というふうに関心がないとは思ってしまうので、そこを、わざわざ書かなくても、冷静に民間企業とやるべきだったら民間企業とやるべきだしという理解を、僕はしました。

#### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

木村委員。

#### ○（木村正利君）

逆に私は、これだけの4校、8校の跡地利用について、例えば行政側が、もし、8年後になくなったことを想像しますと、かなり時間軸タイトかなと。ことを申すと、民間のノウハウとかというのは、そこへいっておかないと、地域の声を聞きながら、それを入れておかないと、現実味として、その跡地を行政側にとりよりも、民間活用という意味は強く入れておかないと、現実論として行き詰まっちゃう可能性のほうが高いと思ったので、私は濱崎委員のほうの「民間企業との連携」というのを、あえて議会側が入れておいたほうがいいのかと思いました。

#### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

石山委員。

#### ○（石山和生君）

理解できるし、そのとおりだと思うんですけど、それは、ちゃんと行政だけでは実現できないという意味で、ちゃんと書いている。行政だけじゃなくて、いろんな民間を含め、ほかの団体と

協力してやるというのは、「行政だけでは実現できない」というところで、十分に読み取れるのに、あえて、さらに民間、民間と出ちゃうと、結構強く感じちゃうんじゃないのって。

そうすると、結局、こうやって市民会議とかを進めるときにも、どういった方向性にしたほうがいいかなというのは、もちろん、ある程度考えるわけじゃないですか。その有効な選択肢のうちの大きいところに誘導するような形にもなりかねないんじゃないのかなと思っただけです。

だから、民間を、できるんだったら活用すべき。それは、僕も大賛成ですけど、ここにわざわざ強く、何か使途が狭められちゃうような書き方をする必要は、ないんじゃないですかという話です。

#### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

どうですか。極論で言うと、「地域の意見を十分に聞き、行政だけでは実現できない利活用は広い視野での」という、これにしちゃうか、この間の、民間企業との連携と企業誘致ですね、これをにおわせる文面を入れるかどうか、この二つだと思うんです。

木村委員。

#### ○（木村正利君）

最終的には、そこへもってきたときの、継続性、ある程度、そのところが、官が持っているところとか、そういったものが有効活用されていかないと、市の行政的なもの、空いたこれだけの大きい施設の跡地というのは、運営されていくかなというのはすごい懸念するんですね。

それはあくまでも「民間企業との連携や」というところを強く入れておかないと、行政側も市民の意見を聞きながらといったときの時間軸というのは、私は逆にこだわっているのは、その8年後のスケジュールを思うと、議会側としては民間活用ということは、あえて入れておかないと、市民の声を聞きながらという、絞られてきちゃうかなというほうが怖いので、あえて、この言葉を議会側からとして入れておいていただきたいというのは、私の気持ちでございます。

#### ○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

どうでしょうか。入れるか入れないかという極論ですけれども、入れたにしても「誘致するなど」という、この「など」というのは一つの選択としての企業誘致、企業との連携であって、それを入れないことと入れることの意味、それは、私が先ほど来、言うように、これからの行政運営って、民間的な企業の考え方をフルに入れていかないと、それは、もうける何とかという、あれでも、基本構想のときに議論になりましたけれども、今回の総合計画に当たっては、やはり民間活力の積極的な導入というのも、かなり行政側は意識していると思うんです。それでなければ、ああいう言葉は当然使わないし。

だから、そういったことを考えたときに、別にこれで、誘致をしろということじゃないと思うものですから、そこまで気を遣う、この提言書を出したことによって、そっちへ行政側が偏っていつちゃうよということではないと思うんです。その前段として「地域の意見を十分に聞き」というのが、しっかり入っていればいいかなとは、私は思うんですけれども、皆さんの総意の中でやっていきたいと思っておりますので。

植田委員。

○（植田博巳君）

あくまでも、企業の連携とか誘致を否定しているわけでは全然ない、石山委員もそうだと思います。

ただ、この文面的な表現として、「広い視野で」という中に、民間企業からいろんな企業が入っているであろうということでの発言だと思いますし、それを前段で、企業を入れることにより、なおかつ、「積極的に誘致」と書いてありますので、民間企業を積極的にやったださいよというような提言になってしまうのかなという懸念があるということで、石山委員等が発言があったのかなというふうに感じました。

以上です。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

分かりました。

濱崎委員。

○（濱崎一輝君）

ここまでの激熱になるとは思わなかったものですから。

私は単純に、木村委員も言ったように、行政だけに任せておくと時間軸がかなりかかるんですよ。民間では早い決断をするというのがあるものですから、8校あるとなると、早くするところと遅くするところが出てくるものですから、そのうちの何校かが民間活用できればいいかなという思いがあって。

なので、例えば今、「積極的に誘致」という部分が引かかるのであれば「積極的」を外してくれてもいいので、ただ、「民間企業との連携」とかというのは入れた方がいいかなという。そういった部分は、一つの選択肢として、こういったものも考えてよねというところでやるのでね。これがあつたら、絶対そうなるよというわけではないものですから、ここに関しては、入れたほうがいいかなと、私は思います。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

恐らく、どこまでいっても、平行線だと思います。考え方は。

それで、議会を代表する議長が、それならば、私は基本的には入れるべきだと思っています。でも、「地域の意見を十分に聞き」、企業との関係は一切カットして「行政だけでは」につなげるようにしたいと思いますけど、どうでしょうか。

大井委員。

○（大井俊彦君）

「地域の意見を十分に聞き」、その後の民間企業云々と、これは地域の意見を十分に聞いた中での選択肢の一つだと思うんですよ。民間企業との連携とか誘致とかというのは。

ただ、地域の意見を十分に聞いた中には、それ以外にもいっぱいあると思うんですよ。ただ、ここで濱崎委員の気持ちとしては、その十分に聞いた中での一つの選択肢として、民間企業との

連携とか何かがあるよという表現をしているものですから、あと「誘致するなど」とかという形で、いろんな選択肢もここで抱えているものですからね、特に、ここで切っちゃう必要もないかなというふうには。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

だから、それを先ほど来、「など」という言葉で一つの選択肢であるしということ言っているんですけど、それではまとまらないものですから、そのときに、私、今言ったように、議長がそれだけ言っているということは、議会の総意として切るしかないかなという結論です。

以上です。

植田委員。

**○（植田博巳君）**

私が言ったから言っていないからではなくて、ここは総合計画特別委員会ですから、同じ委員として取り扱っていただければ結構です。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

いや、それはやはり、どこまで行っても平行線なんです、これは。しょうがないです。それは。そのときに、まとめ役である議長が言う方針というのは、それは尊重すべきだと思ったものですから。

石山委員。

**○（石山和生君）**

中間択としてあり得るなと思っているのは、「積極的に」という言葉が。「積極的に誘致する」ということは、市主導で民間をというイメージがあるので、「積極的に」という言葉を抜くというのもあるんじゃないかと思いました。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

そういう中間的なものが、先ほど来の「覚悟」という言葉と同じで、結局、中途半端にすると、結局中途半端で行政もやりやすいだろうし、我々議会としての責任もないよというふうを考えていくと、ここはすっぱり、中途半端な言葉よりも、切るなら切ったほうが、私はいいかという判断です。

どうでしょうか。

副委員長。

**○（中野康子君）**

濱崎委員のお気持ちも十分考えると、「地域の意見を十分に聞き、民間企業との連携や、行政だけでは」と、この「民間企業を積極的に誘致」という、それを抜かしてすれば、民間企業というのは、やはり入れておくべきだと私は思うので、そういう形で、この「民間企業を積極的に誘致するなど」の、ここを抜けば、皆さんの思いが伝わるのではないかなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

どうでしょうか。

「積極的」を抜いて「民間企業は」。

○（中野康子君）

「積極的に誘致」までを抜いて。「誘致」も入れてもいい。

○（植田博巳君）

「連携や誘致するなど」。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

それでは、「積極的」が問題ということ、要は。

○（中野康子君）

「地域の」で、民間が二つあるのを抜いて、だから「地域の意見を十分に聞き、民間企業との連携や誘致など、行政だけでは実現できない利活用」、ここまででいいということだと、皆さん。よろしいでしょうか。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

それでよろしいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

それでは、そんな形で。

最終案は、少し話をしてまとめます。

---

### 3 その他 （1） 提言書の提出について

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

それで、一通り終わりましたけど、その他で、この提言を提出する方法なんですけれども、一番最初、この特別委員会を設置するときに、最終的に提言書を提出していくのは議長なのかというふうに、その議論があったんですけれども、それは最終のときに話をすればいいじゃないですかということで、私は置いておきましたけれども、これについては、どうしますか。

濱崎委員。

○（濱崎一輝君）

特別委員会が設置されて、これまでいろいろと委員長のほう、ご苦労されてきたので、私は、このまま委員長が提出すればいいかなと思います。

○総合計画特別委員長（太田佳晴君）

私にというより、みんなでやってきたことなので、そのことよりも、どうあるべきかということとで考えてもらえればいいかなと思います。本来。

どうでしょうか、ご意見。

大井委員。

○（大井俊彦君）

特別委員会という目的を持った委員会を設置している上でやってきた中で、提言は特別委員会

の委員長さんが提言するのが筋かなというふうに、私は思います。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

市議会の申し合わせ事項の第7節の中で、各委員会の提言書は議会運営委員会に集約し、検討の上、議員全員の政策提言書として市長に提出すると、こういうふうに申し合わせではなっているんです。

ただ、この中の各委員会の提言書というのは、文教と総務の、これを基本的には指していると思うんです。でも、この特別委員会も委員会には代わりないものですから、申し合わせを考えると、そこは少し、多分、一番最初に指摘した大石委員、そのことじゃないかなと思ったんです。

どうですか。議会運営委員長、どうでしょうか。

**○（大石和央君）**

議会運営委員会の委員長として考えれば、確かに申し合わせのところでは、両常任委員会というようところが強かったかなというふうに思いますが、特別委員会が、こうした形で提言を出すということに関しては、特に決めはないというふうに判断をしますので、議長名であろうと、委員長名であろうと、それは差し支えないのではないかと判断します。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

という、議運の委員長の判断ですけれども、ご意見、どうでしょうか。

原口委員。

**○（原口康之君）**

皆さんの意見を聞くと、そのまま特別委員長の名前で出していただければいいと思います。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

分かりました。それでは、特別委員会として市長に提出するというので、よろしいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

それと、もう一つ、提出の日なんですけれども、もう既に11月の市長査定に入っていて、なかなか市長も予定を組めないような状況なんですけど、10月24日、もしくは25日に、ちょうど予算査定があるものですから、その合間の時間をぬって提出するようになりたいと思いますけれども、そんなスケジュールでよろしいですか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

大石委員。

**○（大石和央君）**

私は、この基本構想に関して、この提言についてですけれども、基本構想について反対をしてみましたので、私は、この提言については賛同しないという立場で、よろしくをお願いします。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

分かりました。

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

すみません、お昼になっちゃったんですけど、もう一点、お願いします。

特別委員会を6月議会で設置しまして、今日までやってきましたけれども、当初の目的が、総合計画が策定されるまでということで期間が定められております。

そういったことで、一つの区切りとして9月議会で基本構想が議決され、24日ないし25日に提言書を市長に提出する、これをひと区切りとして、一応、廃止の手続を12月議会で取っていきたいなど、私は考えておりますけれども、どうでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

**○総合計画特別委員長（太田佳晴君）**

それでは、12月議会になるかと思うんですけども、第3次牧之原市総合計画に関する特別委員会は廃止ということで、手続を進めさせてもらいたいと思います。

それでは、今日まで、どうもありがとうございました。

〔午前 12時00分 閉会〕